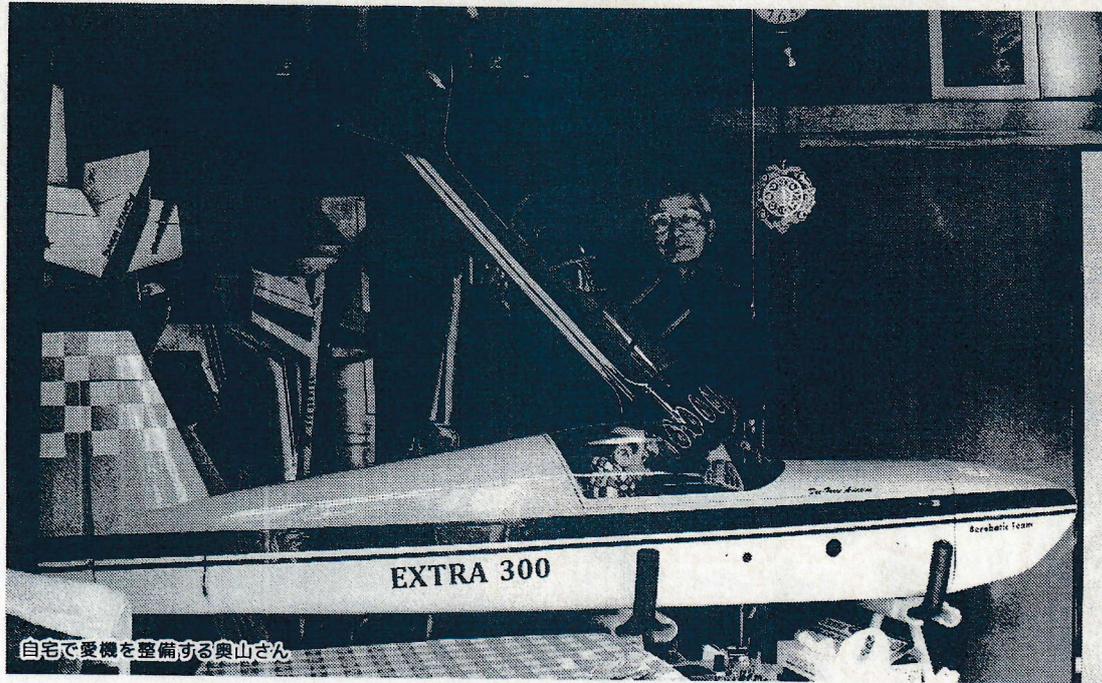


大空に夢膨らませ、ラジコンに熱中して60余年！

コロナ禍で飛行中止も、早期再開を期待して、機体を整備中！！



自宅で愛機を整備する奥山さん

柏市豊四季の元東武鉄道社員奥山正夫さん(78)

が、コロナ禍による国の緊急事態宣言で利用中止になった飛行場の再開を待ち焦(こ)がれている。ラジコンに夢中になって60余年。今も少年のような心を持ち続けている。

奥山さんが所有するのは飛行機10とヘリコプター4、グライダー3の計17機。飛行機にはジェット機と水上機が各1機含まれている。このほか、古くなって処分した飛行機や修理した友人の機体を含めると、150機以上の飛行にかかわってきた。

ラジコンに興味を持ったのは中学3年の時。都内

利根川の飛行場で、大空を勇壮に舞う愛機



飛ばした飛行機は150機以上！

に住む叔父の趣味がラジコンで、夏休みなどに遊びに来た時、当時の柏競馬場跡(現UR住宅、旧豊四季団地)で、飛ばすのを見てから、叔父からもらったエンジンや部品をもとに、不足の部分を買ったり、作ったりして仕上げた楽しんだ。

ラジコンの値段は、1機5万円から100万円を越す機体まであり、費用は掛かるが、修理や組み立てが得意な奥山さんは、仲間

していたので、家計への負担は、あまりかからなかったという。

現在は東京・尾久RCクラブに所属し、緊急事態宣言前まで、利根川にある同クラブの飛行場で仲間と楽しんでいた。

奥山さんは、60歳で定年退職し「地元への恩返し」と、町会活動に参加し、現在、副会長兼公民館

長。この間、家庭はすべて妻武子さん(73)任せ。2人の子供は独立し、夫婦だけの生活で、心配は奥山さんの車の運転。機体を運ぶには車が必要だからだ。

武子さんは「ここまで来たら、健康に注意し、少しでも長く楽しんで」と、温かく夫を見守っている。



時にはヘリコプターも巧みに操縦する